

X-Umbrella-OrgIDを使用したUmbrella APIによる子組織の管理

内容

はじめに

このドキュメントでは、親組織がX-Umbrella-OrgIDヘッダーを使用してUmbrella APIで子組織を管理する方法について説明します。

概要

親組織は、次の2つの方法でUmbrella APIで子組織を管理できます。

- 各子組織の代わりにAPIキーを作成し、それらのキーをAPI要求に使用する([Ulorprogrammable](#))で。
- 単一の親組織のAPIキーを使用して、各子組織に代わって[直接API要求](#)を行う。

たとえば、セントラルオフィス（親組織）は、すべてのブランチオフィス（子組織）からのイベントデータを含むグローバルセキュリティレポートを生成できます。これは、ブランチごとにAPI要求を発行し、イベント情報を組み合わせることによって実現します。

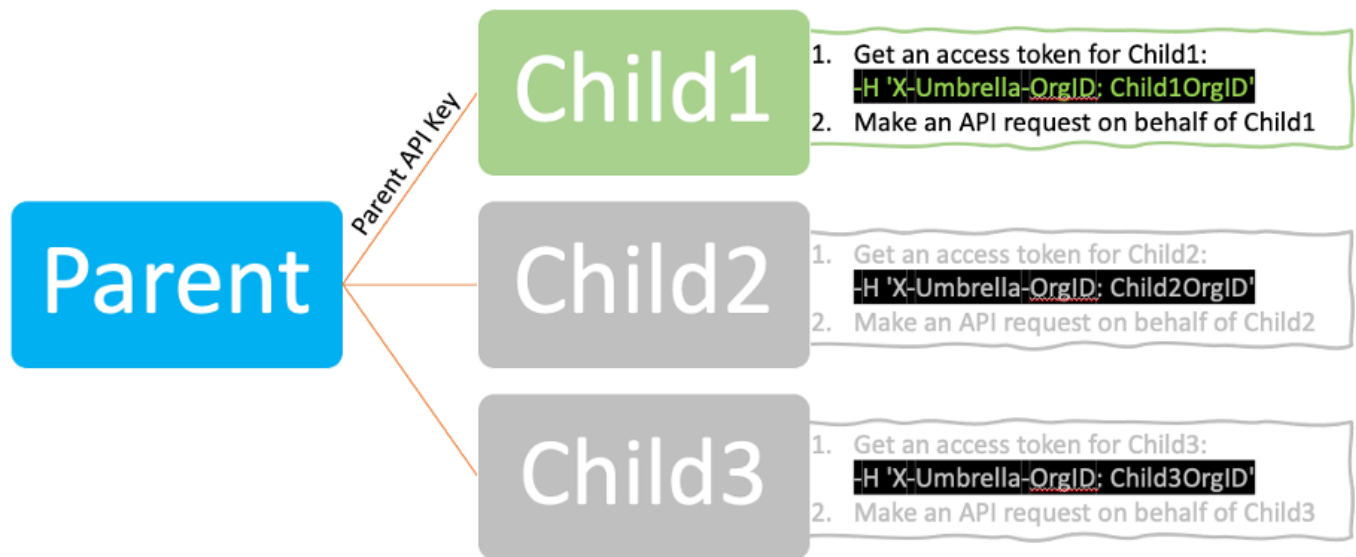
子組織に代わってAPI要求を行う

子組織に対してAPI要求を作成する手順は、次のとおりです。

1. セントラルオフィスの管理者が親組織に[APIキー](#)を[作成](#)します。
2. [API要求を行う](#)場合は、X-Umbrella-OrgIDヘッダーに子組織のOrgIDを追加します。
3. 親組織のAPIキーからのアクセストークンを使用して、要求を認証します。

例：

複数のブランチの複合セキュリティイベントレポートを生成するために、セントラルオフィスでは、各要求の正しいX-Umbrella-OrgIDヘッダーを使用して、各ブランチオフィスに対してAPIコールを発信します。



翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。